①研究題

全日中「北海道大会」第５分科会「進路指導」

社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と

進路指導の充実

②テーマ

～学校課題を踏まえ、学校・地域の特性を

生かした指導の在り方～

③発表者

山形県南陽市立宮内中学校　校長　佐藤　政彦

**Ⅰ　はじめに**

　進路指導やキャリア教育は、生徒の「あり方生き方」そのものと捉え、柔軟に対応できる力や変化を創り出す力など、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育むことが求められている。そのため、キャリア教育に必要とされる「基礎的・汎用的能力」を育成するために構成される４つの能力を高める指導の充実に向け、校長のリーダーシップと戦略的経営を視点に実践を進めている。

**Ⅱ　地域、学校の状況**

　南陽市は、山々に囲まれた山形県南部の置賜盆

地に位置し、米・野菜・果樹などの栽培に適した

農耕地帯である。また、開湯９００年の伝統ある

赤湯温泉や宮内熊野退社など、優れた伝統と歴史

を誇る人口３万人の観光地でもある。南陽市には、

同等規模の中学校が３校あり、隣接する高畠町、

川西町の一町一校の中学校と併せた５校で東置賜

地区中学校町会を組織している。その中で、それ

ぞれの学校課題を踏まえ、学校や地域の特性を生

かし、社会的・職号笛自立に向けた資質・能力を

育成する教育活動の充実に取り組む。

**Ⅲ　研究の概要**

　社会的・職業的自立に向けて、学校・地域の特性を踏まえた学校経営と連動した教育活動の充実を図ることがねらいである。

４つの基礎的・汎用的能力を育成するキャリア教育の充実を図るため、研究の視点として、次の（１）～（３）の３つの視点から取り組む。

**（１）小中連携を生かした取組**

　ア　中学校区ごとの公開研究発表会の実施

　イ　ノーメディアデーの実施

ウ　生徒指導面における小中連携

　エ　授業づくり研修会

**（２）地域との連携・協働を生かした取組**

　ア　社会参画活動

イ　「総合的な学習の時間」におけるキャリ

ア教育

ウ　学校運営協議会と連携した情操教育

エ　学校運営協議会と連携したキャリア教育

**（３）学校の特色を生かした取組**

ア　認知能力の向上に向けた取組

イ　「基礎的・汎用的能力」の育成

ウ　ICTを活用したキャリア教育

エ　校務分掌に「ICT活用推進部」を新設

**Ⅳ　成果と課題**

（１）小中連携を生かした取組

　〔成果〕

　・中一ギャップに解消、不登校生徒の減少

　・保護者や地域との連携強化　等

　〔課題〕

・負担感の減少、持続可能な取組

　・「ポストコロナ」を踏まえた実践　等

（２）地域との連携・協働を生かした取組

　〔成果〕

　・地域人材や資源の発掘、日常生活の向上　等

　〔課題〕

　・コロナ禍での新たな視点のキャリア教育　等

（３）学校の特色を生かした取組

　〔成果〕

・生徒の主体活動を重視

・自己理解の深化

・キャリアプランニング能力の向上　等

　〔課題〕

・実践成果を裏付ける検証

・持続可能な「特色」

・生徒の「あり方生き方」のデザイン　等

**Ⅴ　おわりに**

　生徒の「あり方生き方」を主体的に考えさせ、必要な資質・能力を育むことを意識し、学校や地域の実態等を踏まえながら持続可能な教育活動を教育課程に位置づけることを更に模索し、生徒た

ちの幸せと健やかな成長を願い、学校経営の充実に邁進する。

〔講評〕

　南陽市・高畠町・川西町の５つの中学校の様々な取組を紹介してもらい、小中の連携、地域との連携・協働、学校の特色などを生かした活動について詳しく知ることができ、大変参考になった。

コロナ禍でも持続できる新たな発想力を生かし、生徒の「あり方生き方」を育む支援を行っていきたい。

報告者：鈴木　香織（朝霞・朝霞第五中）